

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

佐野高校の使命(2013～2015)

Education is not the filling of a pail, but the lighting of a fire ~William Butler Yeats

- ① 自立心と進取の気概の育成
- ② フェアなルール感覚の育成
- ③ 多文化共生・国際理解教育の推進

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 授業重視で、「充実した授業、役立つ授業」をめざす。生徒の授業アンケート、職員間の公開授業や研究授業や授業づくりや授業の構造化をめざす校内研修を実施し、個々の教員の授業力改善を期し、「授業の佐野高」をめざす。
※生徒アンケートでは、授業に工夫を感じるという回答が66%と高くない。平成27年度には80%を目標とする。

(2) 生徒にはクラブ活動・生徒会活動等を強く奨励する一方、学校での学習を強め、家庭学習の習慣が身につくように環境を整えていく。
※教科、学年、進路が連携し、家庭学習時間確保等の具体的プログラムを作成する。

(3) CS等を通じ、早い段階からキャリア教育を行う。

(4) 国際教養科の独自化をめざし、活用できる実践的な英語教育と国際理解教育を一層推進する。
※積極的交流、資格試験合格率アップをめざす。<平成26年度から全員英語検定を受験する。> ※オール・イングリッシュの授業を多く実施する。

2 5つの基礎力を育成する事で自立し、自覚できる生徒の育成

(1) クラブ活動加入率の増加をめざし、各クラブが成果を出せるよう努力する。積極的にクラブ支援を行う。
※加入率が70%の状態が続いているが、80%をめざす。 生徒の意識が学校に向き、行動力、規範意識を育成し、生き生きとした生徒を育成する。

(2) 国際交流、地域交流、を強力に推進し、動きの中で生徒を育成。「人権感覚」、「国際理解」、「ESD」等を体験させ、課題解決能力を獲得させる。

(3) 生徒会活動の活発化を図り、その中から、生徒自らによるコミュニケーション力育成、課題解決能力育成を期す。

(4) 読書活動等を奨励し、こころ豊かで、多様性を受容できる生徒を育成。 ※授業での活用を活発化させる。

3 シチズンシップ教育を推進し、地域の生徒の希望をかなえる学校づくり

(1) 日々の学校生活が楽しく充実したものであり、キャリア教育も十分にいきなり将来が展望できる、満足度の高い学校生活を送れるようにする。
※学校生活に対する満足度は従来から高く、これは維持していく。
※進路結果に対する満足度を調査していく。(2年次に進路登録(仮称)を行い、それに対する達成度を卒業時に自己評価させる)

(2) 当たり前のこととして、遅刻・服装指導等の基本的な生活習慣、清潔で美しい学校作り、自宅学習時間の確保を考える。
※遅刻は前年度の半減を達成目標にする。 ※公共の場(廊下、階段等)を徹底的に清掃する。 ※教科、学年、進路で具体的なプランを作成する。
生徒会活動を支援し、行事や校内環境整備が活発に行えるようにする。課題解決能力、コミュニケーション能力、自尊感情等の育成をめざす。

(3) 情報発信を重要視。可能な限り多くの機会をとらえ、情報発信し、学校を理解してもらうように努める。
※保護者、生徒、受験生の知りたい情報を発信できるよう校内組織を確立。
※全教職員、全生徒が学校の広報を担う意識を持ち、自尊感情の育成を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>*実施対象(教職員・1～3年生全生徒・1～3年生全保護者)</p> <p>◎ 生徒向け、保護者向けには20の質問項目を設定し、授業や進路指導、生徒指導や教育相談体制、学校行事などについてアンケートをとった。また、教職員へは30の質問項目で振り返りのアンケートをとった。保護者からのアンケート回収率は83%となり、本校教育活動への関心の高さが伺える。</p> <p>◎ 集計結果については、生徒・保護者からは、例年と同様の高い肯定回答が寄せられ、一定の教育活動の評価や満足度が確認できた。教職員の集計結果は、学校組織体制の見直しや教員間での信頼関係の構築など、前向きな意見が見られた。日々の多忙の中で教員間での話し合う時間の確保が課題との結果が見られた。</p> <p>◎ 集計結果については、生徒や保護者へフィードバックをし、教職員については昨年度の比較や今年度の分析と共に配布をし、教育活動の見直し・振り返りを図った。さらに、学校HPに結果をアップし、地域・保護者にも伝えた。</p> <p>◎ 保護者アンケートでは、生徒の授業理解についての肯定的な回答は67%となった。生徒アンケートでは授業に工夫を感じるという回答は昨年度と同じ66%となり、勉強がわかるという回答は68%となった。教職員アンケートでは、授業研究の機会について肯定的な回答は約6割となり、今年度の授業力向上に向けての目標が意識の変化につながっていると考えられるが、進学率が9割を超える本校に於いて、生徒教員の双方にとって授業は一番の勝負の場と考えられるので、実際の生徒からの回答に反映されるまで努力する必要がある。</p> <p>◎ 保護者アンケートで、子どもを適切・公平に評価しているについての肯定的な回答は92%と昨年度から1ポイント上昇した。学校に対して信頼があり、認められているという証拠であるので、この部分は、教職員全体の今までの努力を継続していく必要がある。また、91%の「子どもが学校に楽しく通っている」という回答は、佐野高校の大きな強みではないかと思われる。</p> <p>◎ 「国際理解の課題について学習する機会が多い」「学校の図書を利用する」という質問について、普通科と国際教養科の間に30%以上の肯定的な数字での開きが生まれた。授業の形態による影響ではあるが、何か対策を考えていかないと行けない。</p>	<p>第1回(6/7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塾の評判では、「佐野高は全体が頑張るよう教育をしてくれる」と聞いている。上位層だけの指導ではなく、底上げ指導を手厚くしているところは保護者として安心できる。 ・土曜日実施で生徒の負担が増えるデメリットについて。過多にならないよう進めてほしい。目標の持てる生徒、持てない生徒両方に手立てをお願いしたい。 ・高校は、将来の自分を方向付ける大切な時期である。学校として積極的な取り組みをしていただけることは親としてはありがたい限りである。負担増のこともあるが応援したい。 ・泉佐野市では全中学校にエアコンが完備した。3年生は授業時間確保ということで、テスト前は7時間授業実施、短縮授業はなくなった。高校入学後の生活に向けて学習習慣の準備をしている。高校は、進路実現の大切な時期であると考え、土曜授業も必要かと考える。 <p>第2回(10/25)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた雰囲気での授業ができている。 ・先生方や生徒の授業に対するモチベーションが高く、その雰囲気が伝わってきた。 ・学校教育計画は実に細やかに推進されている。大学でも英語教育は課題となっており、日本の学生は論理的に英語で文章を書く力が不足しているといわれており、今後はスピーキングだけでなく、ライティングの力も求められるということである。英語に対する考え方が、どのレベルに焦点を合わせるかを考える時期である。自分のアイデンティティーがしっかりしていないと、単に英語だけができるのはどうだろうと思う。包括的に検討する時期に来ている。 ・遅刻数が減りクラブ加入数が増えたことは、学校生活が充実してきている証しで同窓会としても喜ばしいことである。 ・学校は、勉強以外でもどれだけ頑張っているかを見せてほしい。クラブや学校行事などの諸活動と勉強の両輪があつての1つだと思う。いろいろなことを生徒に経験させてほしい。経験できるチャンスを是非作ってやってほしい。

	<p>第3回(1/31)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年・前々年と飛躍的に数字が上がっていたので危惧していたが、さらなる向上をされている。 ・非常に活気を感じる。先生方からそれを感じる。授業の工夫が保護者・生徒に伝わっていない部分があるかと思う。 ・生徒の80%は学校に行くのが楽しいと答え、保護者も学校を肯定的に受け止めている点は、協議員として感心した。英検の全員受験については素晴らしい取り組みと評価する。 ・遅刻指導については成果を上げていると思う。学校の主流層が遅刻増加すると、勉強面や多くの面に影響が出る。どちらにもなびく生徒たちへのアプローチを大切にしている点を評価したい。 ・シチズンシップ教育について、アンケートの「問題が起こったときみんなで話し合って解決する」の数値が低いことが気になる。コミュニケーション能力(対話力)の育成が課題である。メディアリテラシーにも取り組んでもらいたい。 ・27年度の計画・目標については示された形で実施していただきたい。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 授業改革 授業の構造化を推進する	<p>(1)</p> <p>(あ) 学習進路部を中心に教育産業の講師等を招聘し複数回の研修を実施する</p> <p>(い) 各教科での研修や校外の教科研究会での研修さらに互見授業の実施。</p> <p>(う) ICTを活用した授業づくりを進行させる。</p>	<p>(1)</p> <p>授業に対する工夫度に対する肯定感の向上(75%以上)</p>	<p>(1) → (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(全校生)によると「授業に工夫を感じる」は前年と変わらず、66%にとどまっている。(△) (あ) 10月にキックオフの研修を行い、1月に先進校の視察(都立両国高、九段中等学校、岐阜県立華陽高)その成果を2月3日の最終研修会でまとめる(◎) (い) 従来どおり、来年度は新たな授業づくりの研修体制を作る予定。授業の互見は教員相互のべ140H、実習生の見学のべ200Hを超える実績を残した(○) (う) 施設整備が進まなかった(△)
	(2) 学習改革 学習時間の増加	<p>(2)</p> <p>(あ) 週末課題や教科の宿題を体系立てて実施する</p> <p>(い) 45分×7限授業をH27年度より実施する</p> <p>(う) 1・2年生の土曜講習(定期考査前)を実施する。</p> <p>(え) 自習室の整備など学習環境の向上をめざす。</p>	<p>(2) 学習産業による調査を実施しており、その学習時間調査の伸び率</p> <p>(H25年度実績 1年平日62分、休日106分・2年平日42分、休日58分・3年平日55分、休日68分 4月調べ)</p>	<p>(2) → (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生平日前年度と全く同じ、休日で前年度比+4分、2年生平日+5分、休日全くかわらず。(9月実施)指標にあげた数字は4月実施の数値(△) (あ) 1年生で通年週末課題の指導を徹底した(◎) (い) カリキュラム委員会で平成28年度入学生からのカリキュラムを検討中(新たな高大接続テストに対応するため)(◎) (う) 実施できず(△)その分を放課後講習として行った。 (え) 整備中(年度末完成予定)(◎)
	(3) 英語検定等の取り組みの強化	<p>(3)</p> <p>(あ) 英語検定については、準2級・2級の全員受験を実施する。またより実力のある生徒にはTOEIC、TOEFLへのチャレンジをサポートする。英語検定については、教科の授業において指導とサポートを実施する。</p>	<p>(3) 英語検定等の資格試験における合格率や合格者数。――</p> <p>H25年度 準1級2名、2級36名、準2級89名の合格 (第3回の結果を含む)</p>	<p>(3) → (◎)</p> <p>(あ) 1・2年生全員受験を第2回目(10月)実施全員受験のため合格率(合格者/受検者)は低くなったが、第1回、第2回併せて、2級23名、準2級269名となった。また、1月24日実施の英検第3回(校内実施)には200名を超える受検者があった。全員受験の成果として、生徒のモチベーションの向上が見られた。(◎)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 5つの基礎力を育成する事で自立し、自律できる生徒の育成</p>	<p>(1)国際交流 【対人基礎力・処理力】の伸長</p> <p>(2)生徒会活動 【対人基礎力・対課題基礎力】の伸長</p> <p>(3)部活動 【對自己基礎力・思考力】の伸長</p>	<p>(1) (あ)国際教養科の専門的な国際交流は現状を維持発展させる。普通科における交流は生徒会中心の国際交流員会での取り組みを強化する。 また、海外修学旅行についても調査研究を進める。 (い)ユネスコスクールとして、今年度岡山で行われる世界高校生 ESD 大会に積極的に関与する。</p> <p>(2) (あ)新しい日程(6月開催)の文化祭において、限られた条件を最大限に生かして生徒会活動を活性化させる。 (い)(1) - (あ)に準ずる</p> <p>(3) (あ)部活動の奨励はもちろんだが、学習活動とのバランスについて丁寧に指導する。 (い)部活動を行っていることに誇りを持てるように、定期的に全部員会合などの機会を設けて指導する</p>	<p>(1) 新たなスタイルの交流活動の実現の可否 普通科での国際理解教育への肯定感</p> <p>(2) 生徒会の活動まとめなどによる</p> <p>(3) 部活動参加に対する満足度調査(80%以上)</p>	<p>(1) → (◎) ・国際教養科だけでなく、3年普通科にも講演会を設定したり、昨年度よりも国際理解教育の内容・回数を増加させた。ただ肯定感には相変わらず差がみられた(肯定感普通科54%、国際教養科91%)。また従来にはなかった修学旅行とタイアップさせて学年全体で交流事業(台湾・宜寧高級中学)を実施できた。 (あ)年間を通じて海外修学旅行の新たな取組みを考察し、新たなスタイルの海外研修等の調査研究が進んだ。(◎) (い)デンマークにおけるグローバルシチズンシップに関するフォーラムに生徒2名教員1名が日本代表として参加した。また、岡山の世界高校生 ESD 大会に20名以上が参加し運営を担った。 10月には文部科学省より「ユネスコスクール ESD 優良実践事例集」掲載校と認定され、同実践事例集に本校の取組みが取り上げられた。(◎)</p> <p>(2) → (○) ・文化祭や体育祭の実施形態の変化に対応して生徒の力量を高める活動が概ねできた。次年度に向けて、新しい企画や従来の企画なの見直しなど変化を生み出せる主体に成長できるよう指導していきたい。</p> <p>(3) → (○) 部活動満足度調査を実施していないが、学校教育自己診断で「学校行くのが楽しい」「生徒会活動が活発」などの項目を見ると85%の肯定感がみられる。 (い)については、本年度は準備段階にとどまり、実施できていない(△)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 シチズンシップ教育を推進し、地域の生徒の希望をかなえる学校づくり</p>	<p>(1)規範意識の醸成と成長を促す</p> <p>(2)「来てよかった学校」づくり</p> <p>(3)積極的な広報</p> <p>(4)新たな学校づくりへの挑戦</p>	<p>(1) (あ)遅刻指導を全学年で導入する。 (い)高校1年生の母校訪問を含め、中学生から「あこがれる」高校生としてのあり方を追求する。 *ボランティアや出前授業など</p> <p>(2) (あ)従来から学校生活に対しての高い満足度を維持する。 (い)卒業時に進路満足度調査を行い、進路獲得の満足度を調査する。 (う)入学時の学力調査との比較を行い、伸び率が最大になるように学習産業を活用したデータをもとに指導する。</p> <p>(3) (あ)全員で広報する体制をさらに強化する。 (い)中期計画1年目(H25)に達成した広報スタイルをさらにブラッシュアップする。また、広報媒体(チラシ・リーフレット)の刷新を行う。</p> <p>(4) (あ)「課題解決推進委員会(仮称)」を設置し、新たな校務分掌体制による機動的な学校運営を推進する。</p>	<p>(1) 現在年間約7000前後の回数を3000回以下となるように指導する。</p> <p>(2) (あ)同様の自己診断アンケートによる満足感(90%以上) (い)3年次当初の進路登録に対する達成度の自己評価(NEW指標)</p> <p>(3) 新しい広報媒体の評判(中学校・学習塾・保護者。中学生など)→説明会等でのアンケート調査。</p> <p>(4) 学校協議会からの意見による評価</p>	<p>(1) → (◎) 現在時点(1月23日現在2522件 昨年同時期6714件)で昨年度の60%減となっている。生徒指導課のリーダーシップのもと分掌・学年・担任が一丸となって取り組んだ成果である。</p> <p>(2) → (○) 満足度は生徒の85%、保護者の90%超が肯定感を示している。 (い)現在の3年生【67期生】については、年度末に向けて調査する。昨年度末、66期生は第1志望達成率が4年制大学で39.0%(前年度27%)、全進路で45.6%(前年度33.4%)第2志望までを加えると、4年制大学69.7%が進路希望を達成している。今年度も同程度の予想。</p> <p>(3) → (◎)タブレット型PCを導入した説明会や全教員が分担して中学校訪問や説明会に参加する体制が整った。 わかりやすく好評なパンフレット、チラシを作成し、広報につとめた。</p> <p>(4) → (◎) ○課題解決委員会が中心となり、職員全員の机がある職員室の実現やカリキュラム改革への手掛かりが得られた。 ○課題解決は「弱み」を克服する営みである。次年度以降は「強み」を伸ばすことも含めて提案できる組織としていきたい。 課題を共有しながら、個人や教科・学年・分掌などが個々の対応しかできなかったことが、その克服につながらない理由であった。 今年度の遅刻指導の画期的な成果が示すように、個の力の対応ではなく、組織として一丸となった対応を考えていくことで、本校長年の課題である「生徒の学習意欲の低さ」や「学習習慣(特に自宅学習)の低調さ」に対しても、今年度の成功を教訓に進める必要がある。</p>